

それと同様に官吏の費用をも明かにすべきであらう。官吏の數が何人俸給がいくら、事業費との割合が何割になるといふことを知らずれば國民の理解には便利である。議會に對し豫算に對し決算に對する注意が今日までよりは大いに起るであらう。

他のことは他の場合の問題としても、道路省を設け、道路に關する概念を國民の間にもつと明確にせしむることは今日の問題であらうと私は信ずる。道路はもつと改良しなければならぬ。その費用を國民に喜んで負擔せしめなければならぬ。その事情が能く分れば國民は喜んで負擔するであらうと信ずるからである。

道路問題を鳥瞰して其の施設を論ず

藤原俊雄

一「道」の意義

そも、道路は人の交通と物資の運搬とを敏活ならしめるために必須のものであつて、苟も人間が社會を組織して共同生活を營む場合には、相互の交渉と經濟の循環を滑かにするために、必ず無け

ればならぬ設備である。恰も人間個々の交際の上に、相互に其の意思を通ずる言語が存するが如く、社會生活の行はるゝ處、道路の無い都市村落は成立し得ないのである。かるが故に古來我國に於ては『みち』といふ語の意味は、之を道路往還等の物體的意義にも用ひるが、また之を生活の軌範行爲の基準等の精神的意義にも用ひられて、經濟及道德の兩方面に對して最も意義有る語として使はれて居るのである。之を精神的、道德的に解釋するとき『道』といふ文字ほど意義の廣い語は無いが如く、之を物體的に觀ても、道路といふものは人間社會の成立と其の活動の上に最も重要な役割を務むるのであつて、人間社會とは離るべからざるものである。

漢字の『道』といふ字は、走偏に首といふ旁を書いてある。これに就て有名な易學者故高島翁の註釋に依ると、人間の首は精神に相通する所謂『みち』で、これから全身にすべての感動が走つて至誠をはたらかしむる源である、斯ういふ意味に於て『道』といふ字は出來て居ると説かれて居た。西洋の經典にも、

太初に道あり、道は神と偕にあり、道は即ち神なり……萬の物これに由りて造らる、造られたるもの一として之に由らで造られしは無し。(新約聖書)

といふ句があるが、この『道』といふ字は原語では『ことば』(Word)といふ意味に書かれて居る。『ことば』は即ち人の意思が相互に相交通するところの機關であるが如く、『道』はまた社會に於て經濟的交通を爲すに必須のものであるといふ意味に於て、この二つの語は同意義に用ひられて居るに

外ならないであらう。

東洋に於ても老子は

天下道有れば走馬を卻け以て糞^{つちか}ふ。

と言つて居る。蓋し其の意味は、人間社會に正道といふものがあつて行くべき所を行き、歩むべき所を歩むやうな社會が成立して居るならば、所謂戰鬥などの起ることはなく、民は能く力め能く耕して田園爲につちかはれ、歳として豊饒ならざるはなく、所謂天下泰平の時か來るといふ意である。人互ひに相争ひ國互ひに相戰ふといふことは、即ち社會に『道』無きが如く、人と人との間に本當の理解ある交通の無い結果であると謂はなければならぬ。

斯の如く『道』といふ文字の解釋そのものが、古今東西を通じて、精神的にも道德的にも人間の思想の疎通融和することを表はすが、如くに、物質的にも經濟的にも社會生活を循環維持して行くところの根本を成すものが亦所謂『道』であるといふ意義を示して居るのである。吾々は此の『道』といふ語の意義から考へても、道路の重大なる意義と其の使命とを知らなければならぬ。

二 世界の道路と日本

茲に於て道路は古來國家の文化的施設の中に於て最も重要視せられたのであつて、何れの國に於ても苟も文明國と稱せられるならば、其の道路交通の施設に於て四通八達の便が備へられて居ると

いふことを直感せしむるのである。我國に於ても封建時代に諸侯大名の割據したる勢力に依つて、國內に四通八達の便を餘儀なくせられたといふ形があつた爲か、世界に於ても有数の道路延長を有する國の一つである。但し我國は馬車や鐵道や其の他機械力に依る交通機關の發達が後れて居つた爲に、路幅は非常に狭いけれども、所謂天下の公道 Highway なるものは、國土の小なる割合に其の延長が頗る多いのである。一面には古來人口が稠密であつて、都邑村落が到る處に形成せられて居るといふ自然の必要に迫られて、夙く道路の開けたる點、而して其の延長の普及して居る點に於ては統計の示す所、彼の加奈陀佛蘭西獨逸等の諸國を凌駕して居るといふことは、聊か吾々の意外とする珍現象であると謂はなければならぬ。

併ながら之を道路の實質に就て見るならば、過去の道路は單に人馬の歩む所と考へられて居つたのであるけれども、近代の道路觀念は全く此の舊い見解を脱して、道路とは即ち最も新しき交通機關たる自動車、の走り得べき所となつて居るのである。而して前述の西洋諸國に於ける公道といへば、其の路幅の廣い點に於て、其の路面の鋪裝せられて居る點に於て、眞に近代的道路として用ふるに足るものが普及せられて居るのである。然るに我國に於ては、單に延長里數に於て四通八達を誇るに足るのみであつて、其の道路の實體は全く原始的狀態の儘に遺されて居るのであるから、實質的に論ずれば遙に世界の後塵を拜して居ると言はなければならぬ。其の結果は道路の運輸能率に於て經濟的價値に乏しく、一般經濟界に大なる貢獻を爲すことが出来ない、又自動車工業等の發達を促進

することが出来ず延いては我國の産業貿易にも悪影響を及ぼして居るといふことは頗る遺憾な事である。故に吾々は單に統計に現はれたる道路延長に満足することなく、近代的道路の變遷を正視して大いに道路の實質的改良に努力しなければならぬ。

而して我國の道路を名實相伴ふ近代的道路たらしめて以て世界の文明國に伍して行くには彼の朝鮮の山野に原始的道路を設けて未開地を開發するが如き意味に於ける道路の計畫は必要としないのである。即ち今日以後の我國の道路政策として最も重要な事は全國の主要道路の幅員を擴張するといふ事と其の路面を鋪裝するといふ事の二つが残されて居るのである。さうして此の事は舊に道路問題として重大なるに止まらず、我が國運の發展を促進する意味に於て最も重要な使命を有する所の一大經濟問題であると論斷して、敢て過言ではないと信するのである。

三 自動車の發達と道路

上述の如く重大なる意義と使命を有する我國の道路が、今日まで原始的状態に置かれて其の改良は遅々として進まず寧ろ或る意味から言へば之が阻碍せられて居つたといふ事は、何に原因するであらうか。第一に我國に於ては自動車の利用が甚だ後れて、其の經濟的價値に着眼する所なく、最近まで全く之を贅澤物視せられて來たといふ事、第二には汽車、電車等の交通機關が比較的急速度に發達し、加ふるに財界の好況時代に殆んど非採算的にまで其の事業の普及が企畫せられた結果、官線

外に大小私設鐵道會社が今日尙ほ三百以上も存立して居るといふ狀況である。是等の諸會社が多くは收支引合はず經營困難に陥つた爲に交通事業に對して一般經濟界に稍と嫌厭たる情を起さしめたることは争ふべからざる事實である。茲に於てか道路の改良事業に對しても經濟的に重きを置いて考へないといふ情勢を馴致したことが、我國の道路改良事業に大なる障礙を與へた原因であると察せられるのである。

併ながら今や自動車の發達利用は世界の氣勢であつて、我國に於ても漸く之に追隨し、其の經濟的價值が明かに認められるに至つた今日に於ては、自動車工業を促進する意味に於ても、自動車の利用を基準とする道路政策に對して、國民の理解が一層深められ速に是が實施を促進するのぞなければ我が國民經濟の發達は今後非常な不利益を蒙ることは火を睹るよりも瞭かである。

今より二十年前には、自動車の本家本元たる米國に於てすら、鐵道と自動車とが競争するものゝ如く考へたり、或は其の競争が鐵道の收入を殺滅するものとして仇敵の如く罵られた時代もあつたのである。併ながら其の後次第に自動車の特質と其の使命とは明瞭に認識されて、専ら重量貨物を遠距離に大量輸送する事の特質とする所の鐵道に對して、其の輸送を補助する機關として自動車を利用することの利益なる事が覺られて來たのである。斯くして一面に於て道路が益々開發せられ、之に伴つて自動車の利用はいよゝ盛になり、遂に鐵道に於ても之を正當なる補助機關として活用することを獎勵協力する現状にまで推移し來つたことは社會進歩の爲に洵に慶ぶべき現象であつて、

陸上交通機關としての機械效力の利用は、茲に於て稍々完成せられたと言ふて宜いのである。我國に於ても今後是と同様の經路を辿るべきものであることを思へば、一日も速に近代的道路の完備することを、國民は擧つて歓迎しなければならぬ。

四 經濟難打開の途

斯の如くにして道路の改良は社會經濟の發展を齎す所の基本的施設として缺くべからざるものであるが、殊に今日の經濟難の時代に直面して之を救濟打開する方策としても亦重要な意義があると思ふ。即ち一は簇出する失業者を救濟して社會問題の緩和を圖り、一は外來の觀光客を誘致して國際貸借の改善に資することも亦道路改良事業の起興と近代的道路の完成に依つて企圖するところが出来るのである。

近年不景氣の襲來に依つて、國民は齊しく苦痛に堪へざる窮狀に陥つて居るが、就中最も直接に其の影響を受けて居るものは所謂普通勞働者であつて、失業者の最も多いのも此の階級に屬するのである。茲に於て政府及び地方廳は、特に道路改良事業を起興して是等の失業者を救濟しようといふ事が、一昨年以來創められ、各地に道路工事が施行せられつゝあるのは、機宜に適したる施設であるが、余をして忌憚なく言はしむれば、此の失業救濟に依る道路事業に對して甚だ遺憾とする點があるのである。それは何かといへば、其の殆ど悉くが鋪裝工事にあらずして、所謂新設工事若くは幅員擴張

工事に止まつて居ることである。或は屈曲せる路線を矯正して距離を短くするとか或は狹隘なる路幅を擴張するとかいふ工事のみが行はれて居つて、路面の舗装といふ事が閑却せられて居る。是れ恐くは當事者の頭腦が單なる失業者の救済といふ點に傾いて、自動車の走り得る道路すなはち今日の道路であるといふ觀念が乏しい結果ではないかと思はれるのである。

是は現に行はれつゝある道路改良事業の一大缺點とも謂ふべきであつて、今日以後の道路といふものは、どうしても建設と同時に完全に舗装してしまふといふことでなければ、眞の近代的道路とは言へないのである。彼の原始的道路とも謂ふべき所謂砂利道の如き黄塵濛々たる道路は、沿道の住民に對して空氣を汚濁し、病菌の仲介たる塵埃を撒布し、店頭を汚損し、貨物を汚染する等其の非衛生不經濟なること、到底今日の理想に適つたものではない。故に假令失業救済事業として行はれる場合と雖も、苟も道路改良工事である以上は、一步を進めて道路の改築と共に舗装を完成する、即ち道路とは舗装せられたるものであるといふ觀念を根本に於て確立する事が、何よりも緊要であると思ふ。また全國の主要道路は風光絶美なる沿道を連絡して觀光地に達するに最も便利にすると共に、鐵道停車場に相通するやうに舗装して行くことが必要である。然るに現在行はれつゝある所を見ると、往々此の觀念を離れて漫に鐵道線路と並行の道路を造られて居る場所も無いではない。是等は宜しく將來當局者の一考を煩さなければならぬ點である。

其の他鐵道を以てすれば二時間を要する距離の地が、道路が完全に舗装されて自動車を走らせれ

ば一時間で行けるといふやうな場所には出来るだけ速に道路の建設を行つて貨物旅客共に自動車の利用に依つて經濟的活動を敏活ならしむる計畫を立てる事が必要である。之に依つて地方の農産物が都會地に容易く輸送せられ低廉なる食料品を都會人士に供給することが出来る。それのみならず保健衛生上より見るも今日の栄養學上最も尊重する所の新鮮なる農産物を都會人が攝り得るといふ事は、一に道路及自動車の恩恵に俟たなければならぬ。宜しく斯かる點に着眼して大都會中心の舗裝道路を完成せられんことを希望して已まないのである。

五 觀光施設としての道路

我國は世界に有數なる風光に富んだ國であつて、現に近くは國際觀光局なる官廳が新設せられて、世界の觀光客を吸引すべく各種の施設計畫が研究せられつゝあるのであるが、余の見る所に依れば、何よりも先づ我國の主要幹線、就中觀光地の道路を改良完備して、歐米の漫遊客をして自動車を持參して遊覽せしむるに足る設備を施す事が最大急務である。道路の施設を閑却して、如何に宏莊華麗なるホテルを建築して外客を待つても、それは恰も大抱負大經綸を有する人が無言で坐して居るが如く、如何に其の人が賢明であつても、何等社會を利する事が出来ないのと同じ結果になるであらう。如何に外客の寢食する設備が完全であつても、交通の上に現代に適したる治安が無いといふことは、頗る片手落の施設と謂はなければならぬ。

故に之を理想的に論ずるならば、觀光局が設けられると同時にホテルの施設に對して保護助成をする方針が立てられた如く、速に道路完備の計畫を樹立して、先づ東京附近に於て例を擧げるならば、日光富士五湖箱根三浦半島房總海濱等に通ずる道路が改良せられたならば、自動車持參の歐米人も優に一二箇月を我國に費して遊覽するに足る場所は少しとしないのである。風光に於て言ふならば日光鹽原の幽邃なる、房總海岸の雄大なる、瀬戸内海の明媚なる等々、世界に誇るに足るべき天恵を有して居るのであるから、之を廣く紹介して觀光客を招致せんとするには、先づ道路の完備といふ點に努力しなければならぬ。

又同時に税關の設備として自動車を預かる倉庫を設け、或は通關の手續を簡易にする等彼のリバプール、ハンバークに於ける船會社が、自動車持參の觀光客を歓迎する廣告を爲して居るが如くに、我國に於ても汽船會社、税關、倉庫等の設備に於て、世界の自動車遊覽客を満足せしむるに足る施設を進めなければならぬ。

最近世界的不況の裡にも拘らず、我國を訪れる觀光客の數はこゝ數年間略ぼ同じ數を示して居るといふことは、日本の風光に對する世界人の憧憬が幾らかづつ増進しつゝあることを立證するものであるから、今後一層の努力をしたならば、所謂貿易外インサイドル・トレードの貿易の増進に資する所も大なるものがあるであらう。現に年々我國に來る所の觀光客は少くとも四五萬人を下らず、費す所の金額も七八千萬圓を昇降して居るのであるが、之を佛蘭西のそれの如く六、七億圓に達せしむることも、敢て不可能な

問題ではないと信ずる。

要は世界人の現代式スポーツ精神に順應すべき文化的設備を完うするといふことであるが、其の設備中の最も緊切なるものは、人が相對して語り合ふことに依つて意思が疏通し、そこに無限の歡喜の情が起るが如くに、未知の土地に遊んで自由に東西に交通し得ることによつて、其の風光を賞し風俗を味ひ、人生の慰安を得ることの上にもまた絶大なる歡喜の情を誘發せしむるに足る設備を完成することではなければならぬ。

六 結 論

道路改良會は創設以來十數年間常に此の目的に向つて國民の觀念を訓練すべく努力せられ來つた結果、今や道路問題に關して大いに輿論を喚起するに至つたことは、寔に其の努力を多とするのであるが、今後尙ほ一層の力を傾注せられ、眞に道路問題を解決して、我國將來の發展に貢獻せられん事を期待する者である。